

6月7日 AM6:30、松本市県合同庁舎駐車場に参加者2名が集合、MHC 乗用車に乗り込み出発する。天候は青空広がる晴天。国道158号線を一路上高地へ。新緑萌える梓川沿いを走り、1時間ほどで沢渡市営第二駐車場に到着。ここで小休憩をして上高地へ向かう。新釜トンネルを2つ抜けると、展望が開け、左に焼岳、そして道を大きく右に曲がると、残雪いただく穂高岳連峰が望まれる。

上高地バスターミナルで下車し、大自然の空気を味わう。出発準備をする青葉若葉の空に、鳥のさえずる声が響いている。



大正池畔からの残雪の穂高岳



河童橋袂で梓川の飛沫を浴びる。

バスターミナルの階段を昇り、2Fの食堂、特設会場へ入り込む。特設会場では市民参加のMHC登山講習時の山岳写真、「上高地の美しい自然と北アルプスの美しい自然」の写真展約70点が展示されている。支配人は不在だが、評判は上々だという。食堂スタッフが、熱いコーヒーをサービスしてくれた。一息後、AM8:30準備を整え、リュックを背負い、バスターミナルを出発する。雪解け水を集めて飛沫を挙げて流れる梓川、その流れに架かる河童橋から残雪の穂高連峰を仰ぐ。ここから右岸沿いの木道、また林道を歩き、明神へ向かう。1時間30分ほどで明神に到着。嘉門次小屋の囲炉裏端に陣取り。イワナの塩焼きに舌つつみを打ちながら、持参した昼食を摂る。



梓川右岸の木道を明神へ向う



木道から六百山を望む



イワナ



オスのマガモ

30分程の休憩の後、つり橋を渡り、梓川左岸の林道を明神から小梨平キャンプ場経由で、上高地へ引き返すこととする。この付近からは、ニリンソウが道端に咲き、サンカヨウ、ツバメオモトなど白い花々が咲く。川辺の近く、コバルト色のエゾムラサキ、薄紅色のベニバナイチヤクソウが姿を現す。



ニリンソウ



ラショウモンカズラ



サンカヨウ



エゾムラサキ



シロバナエンレイソウ



ツバメオモト

林道わきを歩くと、残雪の峰々と新緑のみずみずしさ、そして咲き競う花々に、心洗われる気持ちとなる。小梨平を抜け、再び河童橋脇を通り、上高地の駐車場に停めてあった車に乗り込み、沢渡経由で、

今日の宿泊地乗鞍高原へ向かう。一旦 158 号線を松本方面に引き返し、乗鞍高原への山道を登る車道からは、晴れた青空に残雪の乗鞍岳が気高く大きく望まれる。PM3:00 番所のペンションほうき星に到着、泊す。ペンションでは、到着した我々に、オーナーが気を利かせて煎じてくれた熱いコーヒーを味わい、ほっと一息する。



車道から見上げる乗鞍岳の雄姿



ペンションほうき星



静かな池面のまいめの池

一休み後、車で 10 分ほど登り、市営温泉「新湯けむり館」に入浴し。浴槽内で体を伸ばし今日の疲れを癒す。入浴を済まして、今日の宿「ほうき星」に戻り、PM6:00 からの夕食で軽くビールで乾杯をする。そして、夕食後は乗鞍岳の硬水を沸かした、熱いコーヒーを味わう。この夜、PM9:00 過ぎに静かに就寝する。

8 日、晴天の朝を迎える。朝食後 AM8:15、準備を整え、オーナーに別れを告げて、車に乗り込み、ペンションを出発。新緑萌える一ノ瀬園地に向かう。白樺林を抜けて、なだらかな坂を昇り、最初、静かな池面のまいめの池を訪れる。道端に小首をかしげてるように伸びているワラビが林立し、あっという間に片手に握れぬほどのワラビを摘む。また車で車道を進み、鮮やかに赤い野生のレンゲツツジが咲き競う広場に出る。青空高く残雪の乗鞍岳が堂々と聳え、その極彩色の景色に感動し写真撮影に忙しい。



小さい花々が咲くどじょうの池



赤いレンゲツツジと乗鞍岳



善五郎の滝を展望台から眺める

そこから今度は、10 分ほど歩いて、小さな白花が咲くどじょうの池へ行く、さらに、車で 10 分ほど登り、駐車場に車を置き、木道を歩いて牛留め池へ向かう。それぞれの池畔で写真を撮り、満足して下山の途に就く。途中、善五郎の滝を眺め、意外と水量が多いことに、感嘆する。

午前中あちこち歩き回って、時計を見るともう PM12 時を過ぎている、昼食の時間だ。そこで、猪谷スキー場ゲレンデ下部付近に建てられた、丸太づくりのレストラン「チロル」で、日本蕎麦の昼食を摂ることとする。ほうき星オーナー推薦の蕎麦屋さんだ。

注文すると、今を盛りの山菜によるテン普拉が盛り付けられ、大サービス、大満足の昼食だった。昼食後、レストランからは、MHC 乗用車に乗車し、一路松本へ向かう。M2:45、県松本合同庁舎駐車場に到着、解散とした。

「新緑の上高地と乗鞍岳、ペンションほうき星の一晩の思い出、レストランチロルの蕎麦の味、何もかも思い出深く余韻の残る山旅ハイキングだった。」